

再評価結果（令和6年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課

担当課長名：高松 諭

事業名	一般国道9号 湖陵・多伎道路		事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中国地方整備局	
起終点	自：島根県出雲市湖陵町三部 至：島根県出雲市多伎町久村				延長	4.5 km	
事業概要 一般国道9号は、京都府京都市から山口県下関市までを結ぶ延長約770kmの主要幹線道路である。 湖陵・多伎道路は、島根県出雲市湖陵町三部と出雲市多伎町久村を結ぶ延長4.5kmの自動車専用道路である。 事業目的は、緊急時の代替路線の確保、現道の隘路区間の解消、観光・医療・物流活動の支援、地域間広域交流の促進及び地域活性化を図るものである。							
H24年度事業化		H17年度都市計画決定		H26年度用地着手		H27年度工事着手	
全体事業費	約284億円		事業進捗率 (R5年3月末時点)	約87%	供用済延長	0.0 km	
計画交通量	21,300台/日						
費用対効果 分析結果	B/C (3便益) (事業全体) 2.2 (残事業) 11.7		総費用 (残事業)/(事業全体) 62/324億円 (事業費：39/301億円) (維持管理費：22/22億円)		総便益 (残事業)/(事業全体) 719/719億円 (走行時間短縮便益：581/581億円) (走行経費減少便益：113/113億円) (交通事故減少便益：24/24億円)		基準年 令和5年
感度分析の結果 (事業全体) 交通量：B/C=2.0~2.4 (交通量±10%) (残事業) 交通量：B/C=10.7~12.7 (交通量±10%) 事業費：B/C=2.2~2.2 (事業費±10%) 事業費：B/C=11.0~12.5 (事業費±10%) 事業期間：B/C=2.1~2.3 (事業期間±20%) 事業期間：B/C=11.3~12.0 (事業期間±20%)							
事業の効果等 ①円滑なモビリティの確保 ・渋滞損失時間の削減が期待される ・利便性の向上が期待できるバス路線が存在する [一畑バス小田線(上塩治車庫~JR出雲市駅~JR小田駅)6便/日] ・大田市から出雲空港へのアクセス向上が見込まれる ②物流効率化の支援 ・県内大手養鶏会社から県外出荷先へのアクセス向上が期待される ③国土・地域ネットワークの構築 ・高規格道路「山陰自動車道」に並行する自動車専用道路の一部として位置づけられている ・日常活動圏中心都市へのアクセス向上が見込まれる ④個性ある地域の形成 ・島根県東部から石見銀山(R4 観光入込み客数：22.0万人/年)等へのアクセス向上が期待される ⑤安全で安心できるくらしの確保 ・第三次救急医療機関(島根県立中央病院、島根大学医学部附属病院)へのアクセス向上が期待される ⑥災害への備え ・第1次緊急輸送道路である国道9号の代替路線を形成する ⑦地球環境の保全 ・CO2排出量の削減が期待される ⑧生活環境の改善・保全 ・NOx排出量の削減が期待される ・SPM排出量の削減が期待される ⑨他のプロジェクトとの関係 ・「中国ブロックにおける社会資本整備重点計画(R3.8)」に位置づけられている ・大規模道路事業(一般国道9号 出雲・湖陵道路、大田・静間道路、静間・仁摩道路)と一体的に整備する必要あり ・「島根創生計画(R2.3)」、「出雲市総合振興計画『出雲新話2030』(R4.10)」、「出雲市都市計画マスタープラン(H22.2)」に位置づけられている							

関係する地方公共団体等の意見

対応方針（原案）については妥当である。
 一般国道9号湖陵・多伎道路は、地域産業の活性化や地域間交流の促進に大きく寄与するとともに、国道9号の事故・災害時の代替道路機能の確保、救急医療活動の支援に必要不可欠な路線であり、既に公表されている令和6年度の確実な開通を図って頂きたい。
 また、その他の事業中区間につきましても事業促進を円滑に行い、早期に山陰道の全線開通を図って頂きたい。

事業評価監視委員会の意見

- ・事業者から各事業の概要、評価結果及び対応方針（原案）について説明を受け、事業が適切に実施されているか審議を行い、次のとおり意見の取りまとめを行った。
- ・審議の結果、再評価対象の事業は適切に実施されており、事業継続とすることとした事業者の判断は妥当であると意見集約した。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

H21年度に山陰自動車道（斐川IC～出雲IC間）が全線開通。
 H26年度に中国横断自動車道尾道松江線及び仁摩・温泉津道路が全線開通。
 H28年度に福光・浅利道路が事業化。
 H28年度に浜田・三隅道路が全線開通。
 H29年度に朝山・大田道路が全線開通。
 H30年度に多伎・朝山道路が全線開通。
 H30年度に県道浅利渡津線が全線開通。
 R2年度に益田西道路が新規事業化。
 R3年度に益田・田万川道路、松江北道路が新規事業化。安来道路4車線化が新規事業化。
 R4年度に出雲バイパス（中野東～姫原東）4車線化が完成。
 R4年度に出雲バイパス（神立～中野東）4車線化が新規事業化。

事業の進捗状況、残事業の内容等

令和5年3月末時点で事業全体の進捗率は87%となる見込みである。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

現在は用地買収及び工事を推進しており、早期開通を目指し事業を推進している。

施設の構造や工法の変更等

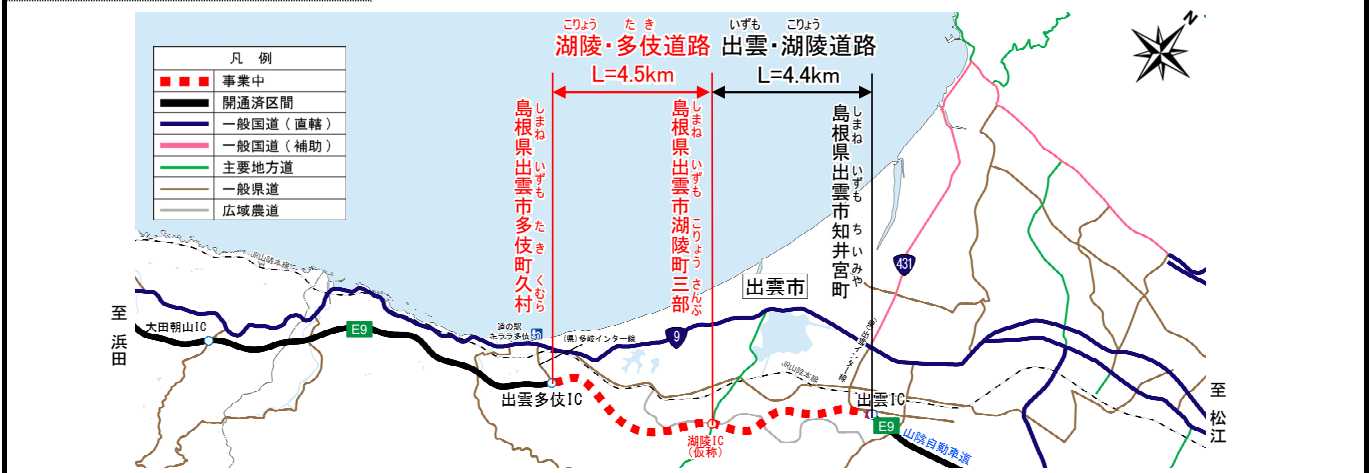
今後の事業の実施にあたっては、コスト縮減に努力しつつ事業を推進していく。

対応方針 事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳と一致しないことがある。